

コード	601030201
記入日	H26.6.1

課コード	109
課名	税務課
課長名	小瀬良 清
担当者	三村 圭司

# 事業評価表【途中評価】

作成年度	平成 26 年度
------	----------

評価対象事業名称	標準宅地鑑定評価委託事業
----------	--------------

事業種類	単年度繰返事業
事業期間	平成 24 年度 ~ 平成 - 年度

総合計画の位置付け				財務会計の位置付け	
政策コード	6	政策名称	参加と行政による協働のまちづくり	款コード	2
施策コード	601	施策名称	行財政の効率化の推進	項コード	2
基本事業コード	60103	基本事業名称	効率的、効果的な財政運営と役場のスリム化	目コード	2
事務事業コード	6010302	事務事業名称	税務総務費（人件費以外）	細目コード	819
関連計画		法令・条例規則等	平成24年度固定資産(土地)評価基準		

## 計画 (PLAN)

※単年度繰返事業については、全体欄を\*\*\*\*\*とする。

対象：誰、何を対象にしているのか		対象指標：対象の大きさを表す指標				
(対象1) 固定資産(土地)評価にかかる標準宅地	(対象2)	(対象指標1) 50点	(対象指標2)			
事業の概要：具体的なやり方、手順、詳細を記入		活動指標：事務事業の活動量を表す指標・達成率（上段：全体、下段：評価年度）				
(全体)	(評価年度実績)	(指標名称)	(指標数値)	(達成率)	(達成率積算根拠)	(目標達成年度)
*****	(標準宅地時点修正不動産鑑定評価地) ・若松地区 12地点 ・上五島地区 12地点 ・有川地区 12地点 ・新魚目地区 6地点 ・奈良尾地区 8地点 合計50地点	① 標準値鑑定評価	50地点	100%	鑑定評価地点÷ 計画鑑定評価地点	***** 平成25年度
		(達成率分析)	町内全域において、鑑定評価を計画どおり実施出来た。			
		②				
		(達成率分析)				
目的：何をしたいのか		成果指標：目的の達成度を表す指標・達成率（上段：全体、下段：評価年度）				
		(指標名称)	(指標数値)	(達成率)	(達成率積算根拠)	(目標達成年度)
		① 適正な価格評価	-	-	-	***** 平成25年度
	・宅地価格の急激な下落変動に対応する為、不動産鑑定士による鑑定評価を実施し、適正な価格による固定資産税賦課業務を行う。	(達成率分析)	宅地価格の急激な下落変動に対応するため、不動産鑑定士による鑑定評価を実施することで、適正な価格による評価が図られる。			
		②				
		(達成率分析)				

## 実施 (DO)

※単年度繰返事業については、評価終了した年度及び評価年度を記載し、その合計を全体計画欄に記載する。

	単位	全体計画		24年度以前	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度以降
		計画	実績	実績	計画	実績	計画	計画	計画	計画
活動指標	① 点	100	100	50	50	50				
	②									
成果指標	①									
	②									
総事業費 C (A+B)	千円	16,048	15,996	7,998	8,050	7,998				
直接事業費 A	千円	2,048	1,996	998	1,050	998				
人件費 B	千円	14,000	14,000	7,000	7,000	7,000				
内訳	従事職員数	人	2.0	2.0	1.0	1.0				
	人件費単価	千円	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000
Cの財源内訳	国補助金	千円								
	県補助金	千円								
	起債	千円								
	その他	千円								
	一般財源	千円	16,048	15,996	7,998	8,050	7,998			

**評価 ( CHECK )**

※理由の欄は必ず記載すること。

1次評価	妥当性	・時代情勢、社会環境の変化及び住民のニーズなどを考慮しても、事業を継続する必要がありますか。	● ある ● ない	理由	適正な価格による公平公正な固定資産税賦課業務を行う事で、住民の固定資産税に対する理解と納税意識の高揚を図るため、継続が必要である。
	有効性	・現在の事業の進め方は、期待されるような成果をもたらしていますか。	● いる ● いない	理由	現時点では、正当な成果である。
		・事業の成果をさらに向上させる余地はありますか。	● ある ● ない	理由	標準地の見直し等により、標準地を統廃合する等、評価地点数を少なくすることにより、事業の成果の向上を図られる。
	効率性	・現在の事業は、費用や業務量に見合った活動結果が得られていますか。	● いる ● いない	理由	現時点では、正当な活動結果である。
・より少ない費用や業務量で必要な活動結果が得られる手法に代えられませんか。		代えられる ● 代えられない	理由	不動産鑑定評価については、高度な知識と情報が必要となるので、他の方法には代えられない。	

**改善 ( ACTION )**

1次評価	前回の途中評価における「改善策」と「その反映状況」	特になし。
	今後、課題に向けた改善策	今後も標準地の見直し等により、標準地を統廃合する等、評価地点数を少なくする。

2次評価	不動産鑑定評価については、高度な知識と情報が必要であり、適正な価格による公平公正な固定資産税賦課を行うため必要な事業である。
------	--

3次評価 住民等の意見	
町の対応	

今後の事業の方向性	<table border="1"> <tr> <th>1次</th> <th>2次</th> <th>3次</th> <td></td> </tr> <tr> <td>●</td> <td>●</td> <td></td> <td>このまま事業を継続</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>事業内容を見直して事業を継続</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>事業費を見直して事業を継続</td> </tr> </table>	1次	2次	3次		●	●		このまま事業を継続				事業内容を見直して事業を継続				事業費を見直して事業を継続	<table border="1"> <tr> <th>1次</th> <th>2次</th> <th>3次</th> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>類似事業と整理統合</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>事業の休止</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>事業の廃止</td> </tr> </table>	1次	2次	3次					類似事業と整理統合				事業の休止				事業の廃止
	1次	2次	3次																															
	●	●		このまま事業を継続																														
				事業内容を見直して事業を継続																														
			事業費を見直して事業を継続																															
1次	2次	3次																																
			類似事業と整理統合																															
			事業の休止																															
			事業の廃止																															

※3次評価については、住民等の意見があった場合にのみ、再公表するものとする。